■コルクタイルAWの施工

P.316

施工前の準備

■次のものをご用意ください。

①合成ゴム系速乾型接着剤 トッパーコルクボンドS又は、
合成ゴム系水性型接着剤 TCE-22
床暖房対応施工接着剤はトッパーコルクボンドS又は、
合成ゴム系水性型接着剤TCE-K（二液混合タイプ）を
ご使用ください。
②道具…1. ブラシ･櫛目ゴテ 2. カッター 3. 定規 4. 墨壷 5. ハンドローラー

櫛目ゴテはこの規格のものを
お使いください。

■全体の色柄バランスを確認してください。

本商品は天然素材のため、1枚1枚で色柄が微妙に異なります。
施工前に全体の色柄バランスを確認しておいてください。
（直射日光による褪色にもご注意ください）

■施工場所の温度が5℃以下の場合、接着剤の硬化が遅くなります。

TCE-22、TCE-Kは水溶性のため、施工場所の温度が5℃以下の場合、
硬化が遅くなり接着力が弱くなります。床面の温度にもご注意ください。
（暖房を入れる等、適切な保温処理を行ってください。）
又、保管は必ず2℃〜40℃までの場所で保管してください。
一度、凍結させるとご使用いただけませんのでご注意ください。

トッパーコルクはISO規格に準拠し製造･品質管理を行なっていますが、天然素材の為規格内で寸法、厚み、直角度等に若干誤差があります。誤差のあるものは部屋の隅等目立たないところに使用するなどの施工上のご配慮をお願いします。

施工前の確認

■施工する下地の確認をしてください。

■CF･Pタイルの上からの施工はできません。

■モルタル下地の含水率測定及び強度チェックをしてください。

乾燥･強度不足は、接着不良の原因となります。
事後処理はできなくなりますので、必ず事前に適切な処置をしてください。

下地が乾燥していることを下記の方法で確認してください。
①打設後3週間以上経過しているかを確認してください。
②同一打設時期で最も乾燥しにくいと思われる部分の下地表面を最低一ヶ所選定し、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ（ガムテープ）止めにより被覆密閉する。24時間以上放置後シート下の材面が黒く変色していないことを確認してください。

■コンパネ･ベニヤなど、継ぎ目や段差がある場合は、サンダーなどで必ず平滑処理をしてください。

木のハガレ等も補修し、釘･ネジも完全に打ち込んでください。

■金属板などは油分をしっかり取り除いてください。

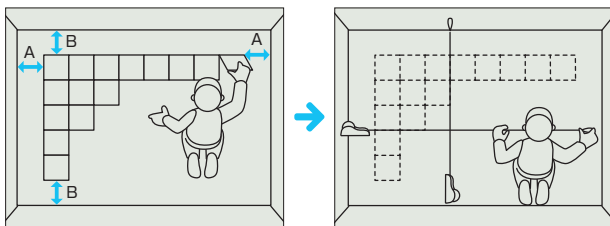
施工の手順

1 下地の清掃

下地表面を平坦に整え、汚れや米粒大のゴミを完全に取り除き乾燥させます。

※コルクは下地になじむためゴミ等が取り除かれていないと、その形が表面にあらわれてしまいます。

●含水率は事前にチェックしてください。

2 割り付け･スミ打ち

部屋の隅で極端にコルクタイルが小さくならないようバランスをとり、墨つぼ等で基準線を描きます。

3 接着剤の塗布

トッパーコルクボンドS

ブラシ･櫛目ゴテなどでコルクタイル裏面および下地表面に接着剤を均一に塗布して10〜60分程度置き、押しても接着剤が殆ど着かなくなるまで乾燥させます。（詳しくは接着剤の取扱説明書に従ってください）

タイル裏面の塗布

タイルを裏返して並べて塗布する場合、目地部にすき間が生じない様、キッチリ敷きつめてください。

タイル裏面に接着剤を塗布し乾燥させた後、コルクを積み重ねて置かないでください。重ねて置くと取れにくくなり表面に汚れが付く恐れがありますので、必ず立てて置いてください。

合成ゴム系水性型接着剤（TCE-22）の場合

ブラシ･櫛目ゴテなどでコルクタイル裏面および下地表面に接着剤を均一に塗布して、接着剤が白色から透明になるまで待ってから貼り始めてください。ただしトッパーコルクボンドSより乾燥時間が長くなりますので、扇風機などをご使用ください。なお、貼り合わせ可能時間は3時間以内です。それまでに貼り合わせてください。（詳しくは接着剤の取扱説明書に従ってください）

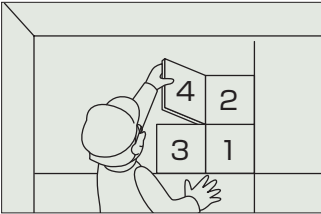
床暖房対応合成ゴム系水性型接着剤（TCE-K･2液混合タイプ）の場合

使用前に規定混合量を確認し、よくカクハンしてご使用ください。
塗布方法などは、TCE-22と同じです。
※混合された接着剤は、8時間以内に使い切ってください。

床暖房装置への施工

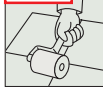
- 床暖房対応のコルクタイルをご使用ください。
- 温水、電気式に関わらず捨て貼り合板（F☆☆☆☆･12mm厚）を敷いてから施工をお願いします。
- 合板の段差 ハガレ等は事前に補修してください。
- 合板の施工に付きましては床暖メーカーの指示に従ってください。
施工後の補修は出来ませんのでご注意ください。
- 施工は弊社指定の床暖対応接着剤、ボンドSもしくはTCE-Kを必ずご使用ください。
又、取扱説明書の標準塗布量を必ず守ってください。

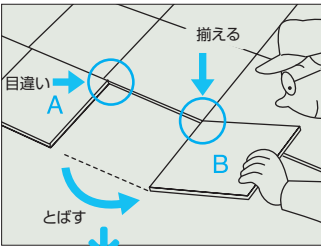
●部位別分類
玄関まわり
階段･廊下
リビング･居室
キッチン･水まわり
窓･サッシ
屋外･ベランダ
基礎･構造

4 敷き込み

コルクタイルは先に引いた基準線が交差する所から貼り始めます。その際、片寄って力を加えると目地に狂いが生じますので均一に力を加え、すき間が生じないように注意してください。

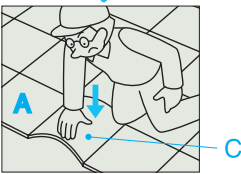
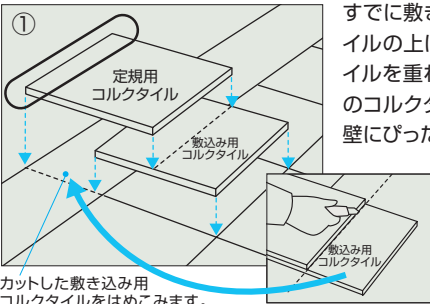
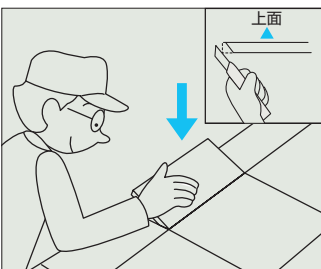
床暖房装置施工の場合

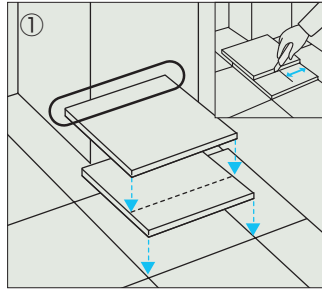
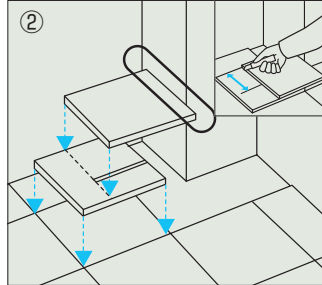
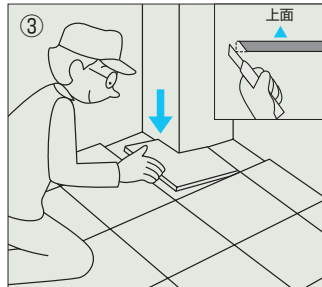
目地部の突き付けの際、若干強めに突き付けてください。

重要

コルクタイルの接着は1枚づつていねいにローラーで圧着してください。仕上げには、目地の上から全体をハンドローラーで押さえます。

5 目違いの補正

敷き込みの途中で万が一コルクタイルAに目違い（2～3㎜程度）が生じた場合は1枚分飛ばしてBを正位置に貼り、AB間にCを曲げて押し込むように貼ってください。

6 壁際の貼り方

カットした敷き込み用コルクタイルをはめこみます。

すでに敷きこんであるコルクタイルの上に、カットするコルクタイルを重ねます。さらに定規用のコルクタイルを重ね、一辺を壁にぴったり合わせて露出部分をカッターナイフでカットします。

できあがったコルクタイルの壁に当たる面を斜めにカットし、壁際に敷き込みます。仕上げにハンドローラーで押さえます。

7 出隅の貼り方

すでに敷きこんであるコルクタイルの上に、カットするコルクタイルを重ねます。さらに定規用のコルクタイルを重ね、一辺を壁にぴったり合わせて出隅コーナー部分と平行な位置までカッターナイフでカットします。

反対側の、すでに敷き込んであるコルクタイルの上に、先程カットしたコルクタイルを重ねます。さらに定規用のコルクタイルを重ね、一辺を壁にぴったり合わせて出隅コーナー部分と平行な位置までカッターナイフでカットします。

出隅の形にできあがったコルクタイルの壁に当たる面を斜めにカットし、出隅に敷き込みます。仕上げにハンドローラーで押さえます。

8 コルクタイルの圧着

重要

全て貼り終わった時点で、接着不良個所をなくすため目地部分を中心にハンドローラー等で圧着させます。
又、全体をポンドローラー等で圧着してください。

床暖房装置施工の場合

敷込時、及び施工後にしっかりと圧着してください。これをおこたると目地すきなどの原因になります。

養生

■水濡れや傷からコルクタイルを守るため、施工後は段ボールや合板を敷いて十分に養生させてください。

■直接コルクタイルに養生テープを貼ることはさけてください。

テープをはがすと、そこだけ変色する場合があります。

ご注意

● 施工後、通熱テストは行なわないでください。テストはコルクタイル施工前か施工後、10日～2週間後に行なってください。又、施工中の通熱もさけてください。